

森・里・街がきらめく ふるさと 南丹市

概要版

みんなの笑顔 元気を合わせ

誇りときずなで未来を創る



NANTAN

南丹市総合振興計画

平成20年3月

はじめに

～「森・里・街がきらめく
ふるさと 南丹市」をめざして～



南丹市長
佐々木 稔納

様々な課題を乗り越え住民の英知と情熱を結集し新しい時代を切りひらくべく、平成18年1月1日南丹市が誕生しました。

本市は京都市に次ぐ広大な面積を有し、四季の彩りに満ちた美しい清流とその水源をかん養する森、農林産物の恵みをもたらす里のきらめき、人情味にあふれ来訪者の心を癒すふるさとの原風景、都市圏近郊の好条件を活かし利便性を一層高めている中心市街地、高い理想と個性あふれる多くの大学等の立地など、異なる様々な顔を持っています。

これらの多面的で多彩な特長を一層際立たせて市のオリジナリティを高めるとともに、市民の感性あふれる視点が生き、高齢者や障がいのある人の願いが尊重され、そして子どもたちの夢が豊かに育まれるまちづくりが重要です。

そこで、本総合振興計画では、これらの想いを大切に、かけがえのない“ひと”と“もの”を南丹市の宝としていっそう磨いていくため、「みんなの笑顔 元気を合わせ 誇りときずなで未来を創る」をまちづくりのテーマとし、市の将来イメージを「森・里・街がきらめく ふるさと 南丹市」と掲げました。

少子高齢化の著しい進行と人口の減少、地域経済や地域産業の低迷、都市と地方の格差の広がりなど、行財政を取り巻く状況は大変厳しいものがありますが、きらめくふるさと南丹市を市民の誇りとして内外へ情報を発信し、市の価値を高め、人々が住んでよかったと実感できるまちづくりを、市民と行政のパートナーシップにより実現してまいりたいと存じます。

本計画を策定するにあたり、大変熱心なご審議をいただきました審議会委員、市議会議員の皆様、そして数々の貴重なご意見、ご提言をいただきました市民の皆様方に、心からの感謝を申し上げます。

平成20年3月

計画の目的

平成18年1月1日、京都府船井郡の園部町、八木町、日吉町、そして北桑田郡美山町が合併し「南丹市」が誕生しました。今、異なった地域課題を持ちながらも、まちづくりへの想いをひとつにし、歩んでいます。

「南丹市総合振興計画」は、「ふるさとに誇りと希望をもち、安心して暮らせる“ぬくもりのあるまち”～農村にもう一度ひとが住み、若者が定住できる環境づくり～」を将来都市像とする「新市建設計画」を踏まえながら、南丹市を今後「このようなまちにしよう」という将来像を掲げ、市が行うこと、市民が行うこと、市民と行政が力をあわせて進めていくことなどの方向性を示すまちづくり計画です。

時代の変化に対応し、市民、地域、企業および行政が一体となって、魅力と活力にあふれたまちづくりに取り組む指針として、ここに「南丹市総合振興計画」を策定します。

計画の構成と期間

総合振興計画は、基本構想、基本計画および実施計画により構成します。

【基本構想】

基本構想は、10年後（平成29年度）の南丹市を展望し、まちの将来像とこれを達成するための基本方針を示すもので、南丹市のまちづくりの指針となります。

【基本計画】

基本計画は、将来像を達成するための施策方針で、施策の基本方向を体系的に示し、個々の事業の目的を明らかにしたものです。

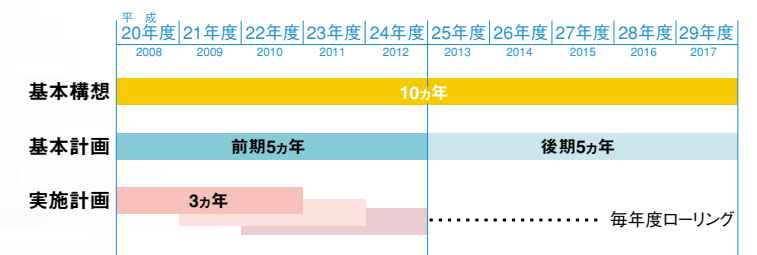
【実施計画】

実施計画は、基本計画に定められた施策方針を財政的な裏づけを持って実施していくために具体的な事業として示すものです。

【計画の期間】

本計画は、平成29年（2017年）を目標年次とします。平成20年度から平成24年度の前期では、施策方針とこれらに関する数値目標（ベンチマーク）を示します。また、実施計画として、3年間の計画をローリング方式により毎年度策定し、達成目標を明確に定め、実効性の高い計画とします。そして、平成25年度から平成29年度の後期については、社会情勢や計画の評価などを踏まえ、中間見直しを行うものとします。

■計画期間



私たちがめざすのは、こんなまち

まちづくりのテーマとめざす将来の南丹市のイメージ

<まちづくりのテーマ>
みんなの笑顔 元気を合わせ 誇りときずなで未来を創る

<将来の南丹市のイメージ>
森・里・街がきらめく ふるさと 南丹市

私たちはこれから、家庭や地域、企業や学校、そして行政といったそれぞれの立場で、一人ひとりが自覚をもち、お互いに支援し協力しあう仕組みをつくっていきます。

そこで、「みんなの笑顔 元気を合わせ 誇りときずなで未来を創る」を「まちづくりのテーマ」とし、地域や世代を超え、まぶしい笑顔、やる気いっぱい元気を合わせて、誇りときずなを大切に、いつまでも生きがいをもって安心して定住できる、そんな未来の南丹市をみんなで創造していきます。また、この基本構想では、将来の南丹市の姿を「森・里・街がきらめく ふるさと 南丹市」とし、ここにしかない「森」「里」「街」に磨きをかけ、これから大きく変わろうとする時代にきらめく、いつまでも住み続けたいふるさとをめざします。

人口フレーム

今後、少子・高齢化の進行もあり、人口の減少が予測されますが、本基本構想および基本計画の施策によって人口の転入を促し、生涯を通じた定住傾向を高めます。また、観光振興を図ることによって、本構想の目標年次における定住人口を34,000人、交流人口を250万人とします。

平成29年度の人口フレーム

<定住人口>

34,000人

<交流人口>

250万人

■定住人口の自然体の推計値と人口フレーム



基本構想・基本計画の全体図

基本構想

まちづくりの基本目標

生きがい定住都市構想

誰もが人としての尊厳と生きがいを求めています。ひとを大切にしながら、福祉・保健・医療・教育・就労などの基盤を市内のすみずみまで広げ、出産・保育・教育・就労・老後にいたるライフサイクルに対して、自立と生きがいを支援する体制を整え、定住促進を図ります。

やすらぎの郷構想

本市は、面積の9割近くを森林が占め、京都府を代表する2つの河川の源流にあって、心やすらぐ自然と産物に恵まれ、温かい人情と落ち着いた住まいが残り、多彩で豊富な観光資源があるまちです。環境を活かし、笑顔につつまれた暮らしを守るとともに、来訪者にも「ふるさと」を提供していきます。

きずなと交流のネットワーク構想

都市近郊の立地を活かし、さらに高速道路や鉄道の利便性を高めるとともに、市内をつなぐ主要道路や地域交通ネットワークを整備していきます。また、地域と世界をつなぐ情報通信基盤を整備・活用しながら、人がつどい、行き交うまちをつくっていきます。

きらめきパートナーシップ構想

市民と行政とのパートナーシップで「森・里・街がきらめく ふるさと 南丹市」づくりを進めます。地域のことは地域で取り組むコミュニティづくりや、まちづくりの多様な担い手の育成、情報公開や参加機会を充実するとともに、住民や地域ができないことを担いつつより効率化を図る行財政運営を進めます。

基本計画

1.生涯充実して暮らせる都市を創る

- ・安心して子育てできるまちをめざす
- ・明日を担い、内外で活躍するひとを育てる
- ・生涯にわたって学び、活かす機会をつくる
- ・医・食・住の充実と高齢者や障がいのある人の自立を支援する
- ・ふるさとで働ける場をふやす

2.自然・文化・人を活かした郷を創る

- ・豊かな緑と清流を守る
- ・資源が循環するまちをつくる
- ・南丹ブランドの「ほんまもん」をつくる
- ・ひとを温かく迎える
- ・伝統文化を継承する
- ・暮らしの安全と安心を守る

3.人・物・情報を高度につなげる

- ・高速移動の網を広げる
- ・鉄道をさらに便利にする
- ・安全で快適な主要道路をつなぐ
- ・誰もが安心な地域交通システムをつくる
- ・双方向の情報通信基盤をつくる
- ・にぎわいの市街地をつくる

4.共に担うまちづくりの仕組みを築く

- ・共に生きるまちづくりを進める
- ・住民自治の地域づくりを進める
- ・多様な担い手のパートナーシップを育てる
- ・大学等と連携し、ともにまちをつくる
- ・未来を担う人づくりを進める
- ・行財政改革を推進する

将来のまちのすがた

恵まれた交通立地や、各地域の特性などを活かしたゾーニングを行い、地域整備、市街地整備を図ります。そのために自然環境に配慮した適切な土地利用の誘導を図る「ゾーン」、地域活動の基盤となる「拠点」、さらにまちの骨格となる「交流軸」を位置づけます。

拠点形成

園部の市街地を中心とした地域を「都市拠点」と位置づけ、市街地整備によって多様なサービスの集積を図ります。また、八木、日吉、美山地域の暮らしの中心となる地域を「地域拠点」と位置づけ、行政サービスと住民活動を支援する機能の集積を図ります。

交流軸形成

広域交流軸

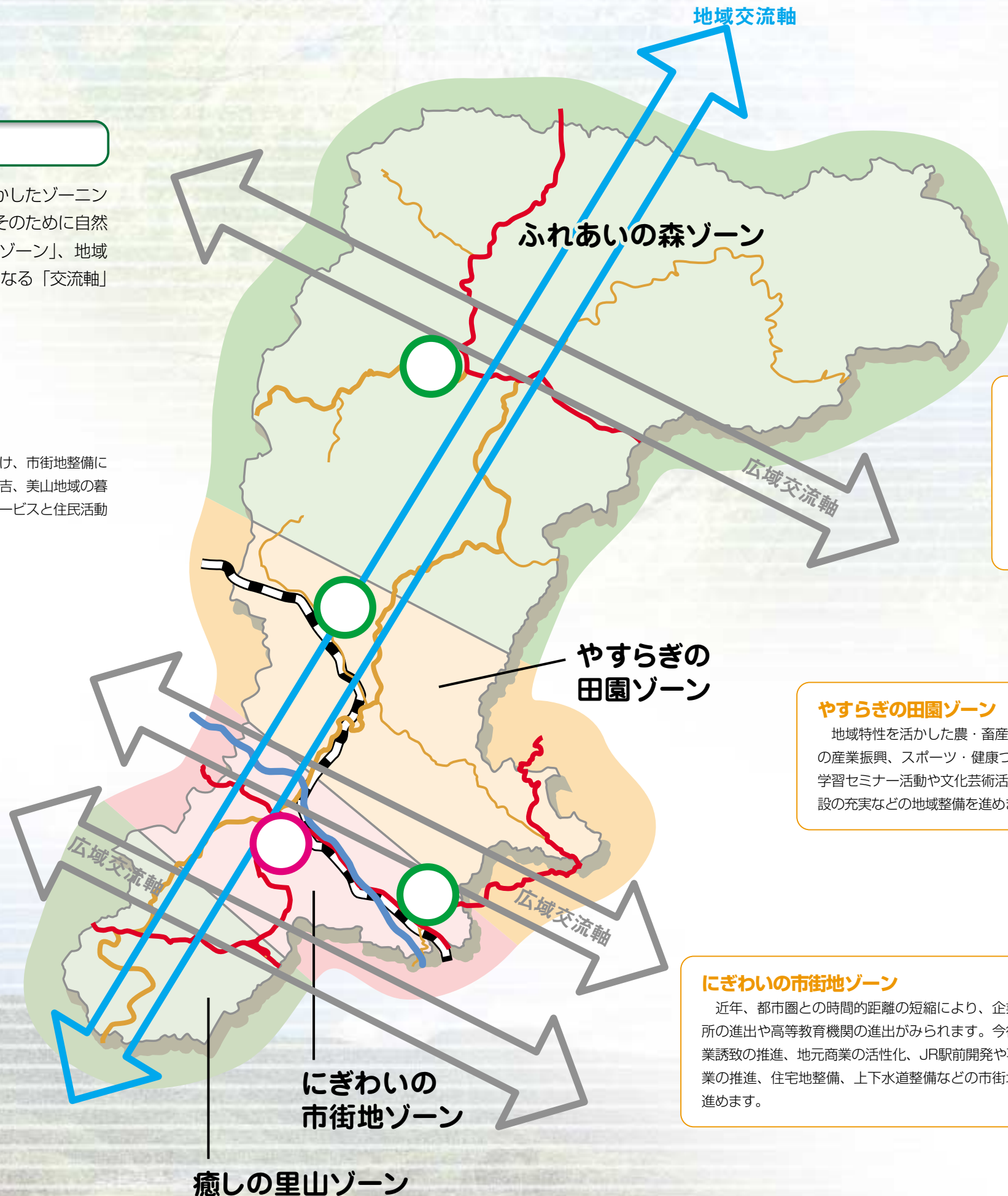
京都縦貫自動車道、国道9号、162号、372号、477号の広域幹線とJR山陰本線を「広域交流軸」と位置づけ、活発な交流と物流を促すための整備を促進します。

地域交流軸

市内の主要な府道、市道および広域農道を「地域交流軸」と位置づけ、安全で安心できる道づくりを進め、地域住民の交流を促進します。

癒しの里山ゾーン

るり深高原や温泉施設等を目的とした来訪者の増加があるなか、今後は、四季を通じて楽しめる自然と温泉を活かし、観光とレクリエーションを中心とした地域整備を進めます。



ふれあいの森ゾーン

豊かな自然環境や、かやぶき民家群などの地域資源を保全し活かしながら、地域おこしを推進し、グリーン・ツーリズムや都市からの移住促進を図ります。また、住民主体による農産物加工販売などを進め、自然とのふれあい豊かな地域整備を進めます。

やすらぎの田園ゾーン

地域特性を活かした農・畜産ブランド化の推進などの産業振興、スポーツ・健康づくりイベントの推進、学習セミナー活動や文化芸術活動の場づくり、余暇施設の充実などの地域整備を進めます。

にぎわいの市街地ゾーン

近年、都市圏との時間的距離の短縮により、企業・事業所の進出や高等教育機関の進出がみられます。今後は、企業誘致の推進、地元商業の活性化、JR駅前開発や再開発事業の推進、住宅地整備、上下水道整備などの市街地整備を進めます。

凡例

- JR山陰本線
- 京都縦貫自動車道
- 国道
- 府道等
- 都市拠点
- 地域拠点
- 広域交流軸
- 地域交流軸

1 生涯充実して暮らせる都市を創る

(1) 安心して子育てできるまちをめざす

- 地域全体で子育てを支援する仕組みづくり
- 子育て世帯への経済的支援の推進
- 多様な保育の推進
- 就学前教育の充実
- 放課後の子どもの育成の場づくり
- 子育てへの多様な支援の一体的な推進

(2) 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる

- 学校規模の適正化
- 学校教育の充実
- 学習施設と設備の整備
- 通学への支援
- 保育所・幼稚園・小中学校の連携強化



(3) 生涯にわたって学び、活かす機会をつくる

- 生涯学習拠点施設の充実
- 生涯学習推進組織の育成強化
- スポーツ・レクリエーション施設の充実
- スポーツ・レクリエーション活動の振興
- 文化芸術の振興

(4) 医・食・住の充実と高齢者や障がいのある人の自立を支援する

- 市民の健康づくりへの支援
- 地域医療の充実
- 食育及び食の安全確保
- 若者定住へ向けた住環境の整備
- 高齢者が安心して暮らせる自立支援
- 障がいのある人が安心して暮らせる自立支援
- 高齢者・障がいのある人の社会参加の促進
- 安心と支え合いの仕組みづくり

(5) ふるさとで働ける場をふやす

- 京都新光悦村の波及効果の拡大
- 工業用地の整備と企業誘致の推進
- 起業支援の推進
- 就労と定住のための支援

みんなで出し合った



- ◎子どもの発病時に対応した保育について病院などを活用して実施する。
- ◎地元の良さを知る学習をして、若者たちの定住を図る。
- ◎双方向の情報通信基盤を医療の分野に活用する。
- ◎小・中学校、高校、大学・専門学校などの若者の福祉ボランティアを開拓し、活用する。
- ◎障がいのある人の自立、就労は本当に深刻な問題であるため、共同作業所や企業の取り組みをしっかりと位置づける。
- ◎市内の大学等を卒業した人が定住するためにも、工芸などの仕事ができる環境が必要。

※審議会、団体ヒアリング、パブリックコメントで出されたまちづくりに関する提案。

ともにめざす目標指標

指標名	現況	年度	目標	年度
地域子育て支援センターの設置	1カ所	H19	⇒ 4カ所	H24
改修済の幼稚園、小・中学校施設数の増加	0園 10校	H19	⇒ 2園15校	H24
文化サークル数	154団体	H18	⇒ 160団体	H24
総合型地域スポーツクラブ数	2クラブ	H18	⇒ 4クラブ	H24
地域福祉ボランティア活動に参加する人の増加	1,427人	H18	⇒ 1,600人	H24
市内で働く従業者数の増加	11,504人	H17	⇒ 12,000人	H22

私たち市民の取り組み

- 子育てをみんなで応援する地域を築こう。
- 経験を活かして、積極的に子育てボランティアやファミリーサポートセンターに登録しよう。また、子育て期の保護者は、こうした市民の助け合い活動を活用しよう。
- 地域の子どもの名前と顔を覚え、登下校時などに見守る地域をつくろう。

- 自分を高めるため、生涯にわたって学びの姿勢をもとう。
- 隣近所での声かけをし、高齢者などが閉じこもらないようにしよう。
- 地元雇用を進め、働く場と定住環境の両面が整った活気あるまちをつくらう。

※一人ひとりの市民・地域や学校・事業所が取り組むこと。

2 自然・文化・人を活かした郷を創る

(1) 豊かな緑と清流を守る

- 森林と河川の保全と活用
- 農地の保全
- 身近な緑や環境美化の推進
- 環境保全の行動支援
- 景観保全のルールづくり
- 森・里・街の景観保全

(2) 資源が循環するまちをつくる

- 省資源・リサイクルと衛生管理
- 環境にやさしい暮らし
- エネルギーの有効活用
- 上水道の安全と安定した供給
- 下水道整備の推進



(3) 南丹ブランド「ほんまもん」をつくる

- 南丹ブランド生産者等への支援
- 南丹ブランドの販路拡大
- 農業の振興
- 林業の振興
- 野生鳥獣被害等への対策

(4) ひとを温かく迎える

- 観光ネットワークの確立
- 観光施設及び周辺整備
- イベント運営
- 情報発信とPR
- 温泉の活用
- 観光漁業の振興
- 交流事業の推進



(5) 伝統文化を継承する

- 歴史文化遺産の調査と保全
- 歴史文化遺産の周知と活用

(6) 暮らしの安全と安心を守る

- 治山・治水対策の推進
- 防災体制の整備と強化
- 防災情報システムと防災設備の充実
- 救急医療体制の強化
- 防犯対策の強化
- 消費者保護の推進
- 交通の安全を確保する

みんなで出し合った

アイデア



- ◎市民が参加する環境保全のためのシステムを創設する。
- ◎CO2の問題は、小さなことから徹底できるシステムづくりをみんなで進める。
- ◎農業振興のため、地産地消の推進や都市住民の消費志向を研究する組織を市民とともに立ち上げる。
- ◎それぞれの観光資源を連携させて、観光のまちづくりを進める。
- ◎地域の歴史に造詣が深い人材を積極的に活用し、伝承を図る。
- ◎緊急の事態が発生したときにこそすぐに立ち上がるボランティアなどの体制を整備する。

※審議会、団体ヒアリング、パブリックコメントで出されたまちづくりに関する提案。

ともにめざす目標指標

指標名	現況	年度	目標	年度
河川の水質の向上	越方橋 pH 6.2~6.9 BOD 1.0 SS 6	H17	⇒ pH 6.5~8.5 BOD 0.7 SS 4	H24
	大堰橋 pH 6.0~6.7 BOD 1.2 SS 4	H17	⇒ pH 6.5~8.5 BOD 1.0 SS 3	H24
	出合橋 pH 6.0~7.3 BOD 0.8 SS 1	H17	⇒ pH 6.5~8.5 BOD 0.5 SS 1	H24
	和泉大橋 pH 6.0~7.4 BOD 0.9 SS 1	H17	⇒ pH 6.5~8.5 BOD 0.5 SS 1	H24
景観保全のためのルールの制定	未制定	H19	⇒ 制定	H22
1人1日あたりのごみの排出量の抑制	537g/人・日	H18	⇒ 400g/人・日	H24
農業産出額の増加	516千万円	H17	⇒ 550千万円	H24
観光入込客数の増加	1,546千人	H18	⇒ 2,000千人	H24
文化博物館と郷土資料館の年間入場数の増加	10,518人	H18	⇒ 12,000人	H24
防災行政無線の普及	15.8% (2,144世帯)	H19	⇒ 100% (全世帯)	H24

※pHは水素イオンの濃度を示す指数。数値が大きいほどアルカリ性。BODは河川の汚染物質(有機物)が微生物によって無機化あるいはガス化されるときに必要な酸素量のことで、数値が大きいほど、水質が汚濁している。SSは水中に浮遊している物質の量で、数値が大きいほど、水の濁りが多い。

私たち市民の取り組み

- 里山の保全に努め、里山の恵みを暮らしに活かそう。
- 下水道への接続や合併処理浄化槽の適切な管理を心がけよう。また生活排水に気を配り、きれいな川を守ろう。
- 共同活動への参加や環境に配慮した農業などによって農業と農地を守り、未来へ継承しよう。

- 自然や環境について学ぶ学習会や森づくり、環境保全・美化の活動に積極的に参加しよう
- 知恵と力を出し合って南丹ブランドらしい、付加価値の高い農林産物をつくろう。
- 市の観光資源を知り、多くの人にPRしよう。
- 市や身近な地域の歴史文化にふれ、知識を深めよう。
- 救急・救命などの講習会に参加し、技術を習得しよう。

※一人ひとりの市民・地域や学校・事業所が取り組むこと。

3 人・物・情報を高度につなげる

(1) 高速移動の網を広げる

- 広域アクセスの強化
- 広域ネットワークを見据えたまちづくり

(2) 鉄道をさらに便利にする

- JR山陰本線の複線化
- 鉄道を活かしたまちづくり

(3) 安全で快適な主要道路でつなぐ

- 広域幹線道路の整備促進
- 地域幹線道路の整備促進
- 安全で快適な道づくり



(4) 誰もが安心な地域交通システムをつくる

- バス交通の確保
- 多様な公共交通システムの構築

(5) 双方向の情報通信基盤をつくる

- 情報通信基盤の整備
- 情報の提供
- 情報環境の整備



(6) にぎわいの市街地をつくる

- 都市計画の推進
- 商業の振興
- 地域の核となる市街地整備と定住促進
- 身近な公園緑地

みんなで出し合った

アイデア



- ◎複線化により、流入人口も定住人口も増える視点でのまちづくり、“学生のまち”の特性を活かしたまちづくりを進める。
- ◎駅前開発によるイメージアップや、中心市街地までのアクセスの向上を図る。
- ◎市域を一体化する道を早期に整備する。現在アクセスが良くない地区も、そのことによって自然環境が素晴らしく、団塊の世代の住宅地となりうる。
- ◎団塊の世代が一斉に免許を返納する時期が来ることで公共交通の利用増が予想される。小型バスがオンデマンドでドア・トゥ・ドアで走行し、ニーズが増えているという事例に習い、導入を進める。
- ◎情報通信基盤を活用して病院や施設の予約などでもできるシステムを導入する。
- ◎本町通りの空き店舗を利用し、市内学校卒業生の工房が開設しているが、今後は若者が根づくために、空き家を学生にあってもらうなどの大きなバックアップを進める。

※審議会、団体ヒアリング、パブリックコメントで出されたまちづくりに関する提案。

ともにめざす目標指標

指標名	現況	年度	目標	年度
市内全駅乗降客数の増加	15,581人/日	H18	⇒ 18,000人/日	H24
平成24年度までに完了予定の市道改修の完了	7路線	H18	⇒ すべて完了	H24
市営バス利用者の増加	254,944人/年	H18	⇒ 255,000人/年	H24
ケーブルテレビへの接続世帯数	8,755世帯	H18	⇒ 12,500世帯以上	H24
市内年間商品販売額の増加	2,795千万円	H16	⇒ 2,800千万円	H24

私たち市民の取り組み

- 鉄道を積極的に利用しよう。
- 歩いて楽しい道づくりのため、地域の緑化などを進めよう。
- 高齢化が進む集落も多く、みんなで助け合える地域交通システムを考えていこう。

- ケーブルテレビに加入しよう。
- インターネット社会での犯罪やウィルスなどの危険を学び、自ら被害を防ぐよう努めよう。
- 市内の商業を消費者として応援しよう。
- 定住促進とまちの未来のため、土地区画整理事業をみんなで進めよう。

※一人ひとりの市民・地域や学校・事業所が取り組むこと。

4 共に担うまちづくりの仕組みを築く

(1) 共に生きるまちづくりを進める

- 人権啓発の推進
- 男女共同参画社会の推進
- 虐待事象への対応



(2) 住民自治の地域づくりを進める

- 地域との協働の推進
- 地域づくりへの支援

(3) 多様な担い手のパートナーシップを育てる

- 協働と市民参画の仕組みづくり
- 政策決定や計画段階での協働
- 実施段階での協働
- より多くの市民参画
- 南丹達人バンク(仮称)の設置

私たち市民の取り組み

- 身近な生活の中にある人権課題の解決に主体的にかかわりを持つ。
- まちづくり協議会や地域のコミュニティ活動に積極的に参加しよう。
- 経済活動や生涯学習活動において大学などとの連携を積極的に進めよう。

(4) 大学等と連携し、ともにまちをつくる

- 連携のための仕組みづくり
- ともに育む「教育のまち南丹市」
- 学生にとって住みやすいまちづくり

(5) 未来を担う人づくりを進める

- 学校教育及び社会教育における人材育成
- 産業を担う人材育成のための支援
- 地域とまちを担う人材育成のための支援



(6) 行財政改革を推進する

- 情報公開と電子自治体の構築
- 効率的な行財政運営の推進
- 行政サービスと職員の資質の向上
- 施設配置の見直しと庁舎の整備

- 地域活動や行事への参加を呼びかけるなど、学生との交流を積極的に進めよう。
- 地元企業として、学生の就職活動を支援しよう。
- 伝統行事に積極的に参加し、その継承に努めよう。
- アンケートやパブリックコメントへ意見を寄せよう。

※一人ひとりの市民・地域や学校・事業所が取り組むこと。



- ◎女性グループ、団体など、女性団体が集まった南丹市女性団体組織を立ち上げる。
- ◎企業誘致を推進できる地域とできない地域があり、できない地域はその地域にある「資源」を地域ブランドとして、雇用に結び付ける。
- ◎人材バンクのように、市民が力を発揮できる場を設ける。
- ◎“学生のまち”の特性を活かすための工夫をしていく。
- ◎国際社会への対応においては、外国語より以前に日本のアイデンティティを持った人材育成を進める。
- ◎各施設の空きスペースなどの有効な活用を行う。

※審議会、団体ヒアリング、パブリックコメントで出されたまちづくりに関する提案。

ともにめざす目標指標

指標名	現況	年度	目標	年度
人権について話し合い、学ぶ活動に参加できる市民の増加	1.3%	H18	⇒ 10.0%	H24
人権について対応できる企業内窓口の設置	0%	H19	⇒ 企業の50%以上	H24
女性の総合的相談窓口の開設	未設置	H19	⇒ 設置	H24
地域自治組織の構築	未実施	H19	⇒ 実施	H23
「住民参加条例(仮称)」の制定	未制定	H19	⇒ 制定	H24
人材登録制度(南丹達人バンク)・(仮称)を設置	未設置	H19	⇒ 設置	H24
連携支援組織の設置	未設置	H19	⇒ 設置	H24
行政評価システムの導入	未導入	H19	⇒ 導入	H23



森・里・街がきらめくふるさと 南丹市

みんなの笑顔 元気を合わせ 誇りときずなで未来を創る

南丹市総合振興計画 **概要版**

発行日／平成20年3月

編集／南丹市企画管理部企画推進課

〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47番地 TEL:0771-68-0003